

久しぶりの勝ち点。でも、勝ちたかったね.....。

岐阜1-東京V【第4節】

後半だけ見た印象だと「1点差を追いつこうと焦るヴェルディの隙について2点目を狙いに行く岐阜」という構図。2点目はもうすぐそこ、確かにそう見えた。今思えば皮肉にもソコにウチの隙があったかな？

一瞬のプレーで同点にされてしまった。時間を有効に使う、という選択肢もあったかもしれない。でもソコで突進したのがウチらしさ。老獪になるのはまだまだ先でいい。

(ST57)

FC岐阜対東京V戦は1対1で引き分け。吉本選手の先制ヘッドで先制するも試合終了直前に追いつかれ惜しくも引き分け、ただ試合内容は良かった、あとは上へあがるのみ。

目標の10位には届くところまで来た。次の試合もサポーター全員でFC岐阜を盛り上げよう！

FC岐阜頑張れ！

(ハマッチ)

どうやら、とんでもない規模の台風が来るらしい・・・。そんな天候の中で始まった東京V戦。たしかに試合中に雨脚が強まった時もあったけど、心配していたほどではなかったな。翌朝も公共交通機関は運転を見合わせたけど、風も特別強くはなかった。今回の岐阜は、その点ではラッキーだったようだ。

その代わりに、といっってはナンだけど、衝撃的だったのがキックオフ直後からの東京Vの攻撃だった。跳ね返しても、跳ね返しても、セカンドボールをことごとく拾われ見事につながれ、瞬間にシュートまで持っていかれた。眼前で見せつけられる圧倒的なテクニックの差。足元はもちろん、クリアのヘディングでさえ余裕を持って受け手のプレーしやすい所へ落とされる。たまたま、こちらがボールを持ってても、「頼む！何かしてくれ」的な祈りのパスしか出せないのに比べ、「こんなもんでどうだろう？」「あとはお好きなように」とばかりに渡される優しいパス。まったくなす術もなく防戦一方。某サッカー漫画の主人公のセリフが、頭の中でエンドレスに繰り返され、まちがいに、今季もっとも押されまくり、遊ばれていた時間。それが、いつ終わるのかわからないような思いに駆られていたのだが.....。

これが、今季の東京Vクオリティ、という現状を表しているのか、彼らのシュートがことごとく決まらない。恭平を始め、岐阜の選手が必死で守り、ポストにも救われ、耐えに耐えた30分。東京Vの集中力も切れたのか、徐々に岐阜にもリズムが生まれ、ゴールが狙えるようになってきた前半アディショナルタイム。和正の右CKから吉本が頭で決める。ついに、お待たせのゆりかごダンスのパフォーマンス。実に劇的な展開。息も絶え絶えになりながら、ギリギリで失点を防いでいたからこそ試合になった。「イける！」とまでは思えなかったが、第2クールのお返しをしてやるぜ！と臨んだ後半。前半同様必死に守り、チャンスも幾度となく作った。特に、あの相手GKが飛び出して、ゴールがガラ空きになった瞬間とか。大友にもう少し運があったら.....。あれだけの声援、チャントを贈られた彼のゴールが決まっていたら、そりゃあトンデモナイお祭りになったと思うのだが。

いや、やはり「たられば」を言ってもしかたがないね(苦笑)。けっきょく、チャンスを逃したただけではなく、終盤のゲームメイクにほころびが出てしまった岐阜は連敗こそ止めたものの、ホームでの勝利を失ってしまった。あの天候の中、観戦に訪れた人たちはもちろん、いろんな理由で観戦できなかった岐阜を応援するみんなに、ぜひとも勝利を贈りたかった。昇格争いを演じる某クラブのGKのように「今夜来てくださった方が本当のサポーターです」などとは思っちゃいけないから。

とにかく、選手はあの前半を耐え切った。長良川劇場に訪れた人はタイムアップの瞬間まで、選手の後押しをした。勝てなかったけど、いろんな経験をして、もっともっと強くなる。選手も、クラブも、サポーターも！

(ぐん、)

嵐がやって来る直前に行われた、嵐のような試合だった。

後半ロスタイムの正吾のシュートの直後。ぼくは感情的になり「いまの入ってるだろ！」と言いつつ口論みたいな状態になってしまった。「いまから言ったってゴールにはならないんだから！」そんなことより、逆襲を喰らって逆転負けになる方が、ぼくはずっとずっと恐かった。そして、これまで観てきたすべての岐阜の試合でも、大分での地域決勝の時でも出したことのない大声で「切り替えるー！！！」とピッチに叫んだ。選手に届くわけはないんだけど、そうするしかなかった。それくらい、この日のぼくは試合に『入って』いた。だから、もし逆転負けしたら、スタンドで動けなくなって、心臓細動で救急車を呼んでもらう状態になってたかもしれない。なんでだろう。今年のJ2で「3試合」とも見る(おそらく)唯一の相手、だからだろうか。

8月の雨の飛田給でちんちんにやられた相手に、しかもこの日も前半は「ぼくたちプロのサッカークラブだけど、君たちは？」みたいにやられたい放題で、そんな相手にとにかく勝ち点を取ることが出来る。だから、もし逆転されたら、ひょっとしたらしばらくサッカーを観に行けない、行けたとしてもそれは重いトラウマになって「どっちかを応援する試合は行けない」カラダになってたかもしれない。

まったく、勝てる内容の試合じゃなかった。やっていること、やろうとしていることが違い過ぎた。それでも、サッカーの試合に『旗の上げ下げ』での決着はない。ただ単純に、相手ゴールに、より多くのボールを入れた方が勝つ。だから、この試合は「勝てた」試合だった...のかもしれない。そこを勝ちきれないところがウチの現在位置なのかもしれない。それでも、終了間際に同点にされても下を向くことなく、勝ち越しを狙って怒濤の攻撃をしかけた選手達をすごく誇りに思う。

選手達は戦っているのだ。そして、これはいつもそうなんだけど、この日のメインスタンドからはいつにも増して「一緒に観客も戦っている」感じがした。『長良川』が一つになって戦う。これこそが、「長良川劇場」の構成要素なのだ。

(吉田鑄造)



画：ひらっち

today's guest

愛媛FC

2008 J2 第14位

対戦成績

第1節 08/05/03 岐阜0-3愛媛
第1節 08/06/08 愛媛0-0岐阜
第3節 08/08/30 岐阜0-愛媛

2009J2

順位表 第4節 暫定)

勝点、得失点差、得点、岐阜戦の戦績
(岐阜から見て)

1 大阪	95p	+40	89	A	H
2 仙台	93p	+38	76	H	A
3 湘南	90p	+31	76	A	H
4 甲府	88p	+29	68	H	A
5 鳥栖	80p	+19	67	H	A
6 札幌	71p	+10	64	A	H
7 徳島	70p	+21	66	A	H
8 水戸	67p	- 4	63	A	H
9 東京V	66p	+ 7	60	H	A
10 草津	58p	- 8	58	H	A
11 富山	56p	- 9	43	A	H
12 岐阜	55p	-10	52	---	---
13 福岡	55p	-22	43	H	A
14 熊本	45p	-22	57	H	A
15 愛媛	43p	-23	49	A	H
16 横浜C	37p	-25	37	A	H
17 栃木	36p	-34	34	A	H
18 岡山	35p	-38	39	H	A

次回 HomeGame

第49節

コンサドーレ札幌戦

11/22(水) 16:00

@岐阜メモリアル
センター長良川競技場

投稿募集!

gdaidohr@hotmail.co.jp

お待ちしております!

FC岐阜大好き通信(岐大通)

10/25号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当: ささたく & 吉田鑄造

おしらせ

2009年版『岐大通』は、試合数増加のために全ホーム戦での発行を断念し、3~4節ごとに発行の体制で臨んでおります。

次回発行:12/05徳島戦 最終節!

よろしく願い申し上げます。

いつもロースコアの鳥栖戦は 終了間際に力尽きる 鳥栖 1-0岐阜【第4節】

FC岐阜対鳥栖戦は0対1で敗戦。J昇格を狙うチームと試合終了間際まで0対0で粘るも秋田選手の退場が響き敗戦。上位に入るにはアウェイでもうまく勝ち点を取るかが大事。目標の10位には届くところまで来た。あとはもっともっと上へ！！次の試合もサポーター全員でFC岐阜を盛り上げよう！FC岐阜頑張れ！

(ハマッチ)
身長が190cmを超えるGKが伸ばした手の上から、ヘディングを叩き込むFWは反則だよな？(苦笑)
今季最後の鳥栖戦は初めての佐賀県総合陸上競技場。なじみのベアスタのような専用スタジアムではなく、陸上トラックつき。しかも観客席の傾斜はゆるく、戦況をつかむのに難儀なピッチ。オマケにそのピッチ・コンディションもお世辞にもイイとはいえないように見て取れた。そんな中で始まった試合。今日の岐阜は、久しぶりの菊池がスタメン。前節の警告で出場停止となったブグルの代わりにボランチを勤める。慣れない布陣で、まずは慎重に様子見を……、と思った矢先にいきなりのピンチ！鳥栖FW5番、ハーフナー・マイクのシュート……、は幸運にもバーの上。しかし、このシュートを合図に岐阜の守備陣は、鳥栖の長身FWへの必死の対応を余儀なくされる。

それでも、防戦一方だったわけではない。いつもながらの労を厭わない走りとプレス。決して、大人でスマートなサッカーではないけれど、まちがいなく相手が嫌がるプレーを繰り広げる。両チームともチャンスを作り、その度に体を張ってゴールを死守した。この試合で放たれたシュートは、双方ともに14本ずつ。ある意味ノーガードな撃ち合いともいえるこのゲームに、ケリを着けたのはハーフナー・マイク。何本もシュートを撃たれながら、ボランチの菊池と両CBの秀人と吉本でギリギリ抑えてきたのだが、最後の最後、しかも左SBの秋田が警告2枚で退場したあとでの、ほんのわずかなスキを衝かれ、右からのクロスに豪快なヘッドを決められた。191センチの恭平がジャンプし、手を伸ばしたさらにその上から頭で決められたのだからどうしようもない。岐阜にも洗一がGKと1対1になるなど、好機を演出したが決められず。洗一が決めたら、みんなで「ゆりかごダンス」ができたのにな……。実に惜しい敗戦だった。

ただ、気になるのは、岐阜の選手のコンディション。全体的に体が重そうな感じがした。裏のスペースに抜けてもゴール前まで走りきれないような、そんな感じ。特に和正のそれが顕著に思えたのだけ……。？

51試合プラス天皇杯という厳しい日程。相当疲れが溜まっているはず。なんとかコンディションを整えて、栃木戦以降のよくない流れを止めてほしい。下を向くな！次だ、次！

(ぐん、)

今年もスリーブ(全勝)はお預け…… 草津 1-0岐阜【第4節】

FC岐阜対草津戦は0対1で敗戦。アウェイとはいえ、敗戦は正直痛い。上に行くためには勝ち点1をアウェイでも積み重ねる強さをみにつけないと。

目標の10位には届くところまで来た。次の試合もサポーター全員でFC岐阜を盛り上げよう！FC岐阜頑張れ！

(ハマッチ)

草津の攻めの狙いは明確で特に岐阜の右サイドを鋭く何度も突いてきました。岐阜の攻撃は点が入る気がしなかったなあ……。確実にラストパスを出せる選手が欲しいです。後半始めの猛攻で得点できなかったのは残念。会場では献血をPRしてましたが岐阜でも行えるとよいですね。

(ミスター珍道)

「勝つためにここに来た」
このゲーフラを、正面から見るのはいつ以来だろう？いつもは、このゲーフラの裏を見てるか、後ろにあるため見えないか、のどちらかだったので実に新鮮。でも、現地に行くことができなかった寂しさを少なからず覚えてしまう。ダンマクの多さと華々しさはいつも以上。ことに、「飛騨美濃」ダンマクの見せ方は実に見事。第2クールに引き続き、あちらの運営や警備担当にひと泡もふた泡も吹かせてやれたんじゃないだろうか(笑)。この試合での合言葉は「3」。試合前の時点で、勝ち点が並んでいる草津。得失点差であちらの順位が上となれば、今日は絶対勝ち点3が必要。その上、今季草津には2戦2勝。Jに加入して初の3タテが目前である。もちろん、3タテのチャンスがあるのはこの草津だけ。是が非でも、みんなと喜びを分かち合いたかったが……。

決定機を外していたのはお互い様だが、やはり3度あったチャンス、しかもフリーのシュートを外すどころか枠にも飛ばせなければ、勝利を得るのは難しい。あまりに絶好機過ぎて、思わず力が入ったか。この試合が45節。疲れはあると思うが、それでも目指すサッカーにプレは見えない。

リーグ戦は残り6試合。目標の10位以内を達成するために、力の限り戦ってほしい。そして、天辺までの可能性がある天皇杯を、こころゆくまで思いっきり楽しもうじゃないか！

(ぐん、)

ロスタイムの一発に沈む…… 福岡 1-0岐阜【第4節】

失点したのはわかった。だが、どのように失点したのか？は、試合後アウェイ側にあるオーロラビジョンでのリプレーを見るまでわからなかった。いろいろ思うことはある。「うちの選手が後ろから突き倒されてるじゃないか」とか「あれはハンドじゃないのか」とか。しかし、しよせん済んだこと。失点は失点。ゴールはゴール。そして、負けは負け。何かが足らなかった、レスタでの初めての敗戦。

とはいえ、試合内容は圧倒的に岐阜の方がよかった。いや、本気でそう思ってる。だからこそ、あの場に居合わせた誰もが、終了後の挨拶に近づいてくる選手に対し、チャントを歌って迎え、そして激励の言葉をかけたのだ。

確かに負けは悔しい。そして、点の取られ方は巷間言われるところの、最近目立っている終盤の失点だった。だがしかし、あの場面で手を抜いた、あるいは気の抜けたプレーをした選手はいない。ましてや、サボった者などは皆無。まっすぐ蹴り出そうとしたボールが相手に当たり、それが不運にも相手に渡っただけのこと。横や後ろに蹴り出すのには体勢が悪い。あの場面はそういう判断だったのかもしれない。

「何回も同じこと」という向きもあるかもしれないが、アディショナル・タイムでの失点は先日の東京V戦と、この福岡戦の2試合だけ。それに、過酷といってもいいようなスケジュールのリーグ戦終盤。多くの選手がJのフルシーズンを体験するのは初めてという中で、がむしゃらに、愚直なまでに走り回ってきた疲れが、今になって徐々に現れてきたのかも知れない。失敗を繰り返さないように、とは誰もが思うことではあるが、それを繰り返すことは多くの人を経験していることだと思う。なかなか勝てない試合が続いているけど、リーグ戦は残り5試合。最後まで走り抜こうとしている選手達を勇気とパワーを与えるために、ボクらも精一杯サポートしていこうじゃありませんか！あ、でも、もっとシュートを意識していこうな、選手たち。福岡戦は12本だったけど、まだまだ遠慮しているような場面もあったよ(苦笑)になしよ、撃たなきゃ入らないんだからね！

(ぐん、)



本庄工業株式会社

<http://www.honj-woodream.com/>

「いらっしやいませ」より

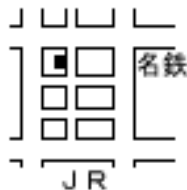
「おかえりなさい」が似合う

アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は

JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。

休：日曜日(今日はお休みです)



ALADDIN

何も無い店だけど・・・心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

さあ、3回戦へ。 次の相手は『浦和』に勝った松本！ 岐阜1-0栃木【天皇杯2回戦】

出場停止の秋田を欠いて不安視された栃木戦。いつものように鋭く縦に突破するというよりは細かいパス回しを意識した攻めだったと思うが、選手個々の「細かさ」のスケールに多少のギャップがあったよう。もっともこれは栃木のしつこい守備が岐阜の思い通りのプレーをさせなかったというのもあったと思う。加えて延長が想定される天皇杯なのでその辺りを多少見越した展開だった。

うまく先制した後は相手選手の退場もあって安心して観ることが出来た。完勝だったと思う。元気に走り回る大友をもう少し観ていたかったなあ、というのが本音。(ST57)

長良川での勝利は9月19日の水戸戦以来。よく考えれば、その後は甲府と東京Vに分け一敗。2試合勝てなかっただけに、ずいぶん長いこと勝てなかったような気がする。それはボクひとりの気持ちじゃなくて、スタジアムに訪れた、少なくとも岐阜の応援に来た人たちに共通する思いだったんじゃないかな？だからこそ、終了のホイッスルが鳴った瞬間、長良川劇場が興奮の坩堝と化した。リーグ戦とカップ戦は違うのだけれど、長良川での勝利には違いない。多くの人々が、FC岐阜の勝利に飢えていた証だと思う。

この試合。リーグ戦の第3クール同様、優大の威力のある惜しいミドルシュートが口火を切った。しかし、これも前回と同じく、徐々に栃木に主導権を握られる時間帯が続き、必死にこらえる場面も少なくなかった。そして、後半開始後しばらくして、歓喜の時が訪れる。決勝点となったのは洗一のゴール。幸い、ボクの位置からは、右足インサイドでのボレーが当たった瞬間からネットを揺らすまでがしっかり見えたのだけれど、試合後の感想戦ではヘッドだと思ってた仲間もいるくらい、みんなが興奮し混乱していたんだな、とおかしかった。CKのセカンドボールを拾ってからの二次攻撃。絶妙のクロス上げたのは、この試合も体が重そうに見えた和正の左足だった。退場で一人少なくなった栃木に、あわや同点……のシーンも作られ、ヒヤヒヤながら1-0の勝利。久しぶりの万歳四唱。むちゃぶりのゆりかごダンス。一息ついて、「さあ、今年もJ1に挑戦！秋田で浦和だ！！」と氣勢を上げようとしたところへ「松本山雅2-0浦和」の報が……。もう、何がなんだか？？？？

それでも、これが一発勝負のトーナメント。カップ戦の醍醐味だ。隣県対決を秋田でやるのも乙なもの(笑)オマケにある意味「リアル・グリーン決戦」とも言える。所属は地域リーグだが、浦和を倒し、JFLを目指して突き進む勢いのある相手。侮ることなく奮ることなく、真正面からねじ伏せよう！秋田を抜けたら熊谷だ！（ぐん、）

後半途中からの参戦となり、佐藤選手の得点シーンは見れませんでした(涙)。試合終盤はヒヤヒヤのシーンが連続しましたが、何とか勝利。

次は浦和レッズを破った松本山雅。その次はJ1のチーム。一つでも多く勝ち上がって、日本全国に対して「FC岐阜ここにあり！」と凱歌をあげましょう！（元旦の予定は開けて置く様になります。笑）(シュナ)

とても厳しいゲームだったと思います。速く、厳しい栃木のプレスによって岐阜の中盤でのパス回しは寸断。岐阜の攻撃の要である両翼対策もサイドバックの上がり控えさせて栃木は対応してきました。組織的なディフェンスから、手早く岐阜のサイドバックの裏のスペースへ展開する栃木のショートカウンターによって、岐阜のサッカーができないまま前半は終了。リーグ第3クールの栃木戦で、栃木の90分間を通した走力の安定感と岐阜に対する対策の巧さをひしひしと感じていたので、僕は全く楽観的な気持ちになれないまま後半を迎えました。そんな重々しい空気を我々のエースが一変させます。和正のクロスから洗一が技ありのボレーでゴラッソ！苦しい展開の中で先制点に沸き立つ長良川。

そして、このゴールが結果的にこのゲームの分岐点になりました。ピハインドを背負った栃木は即座にターゲットマンである若林を投入。彼にロングボールをぶつけていく戦術にシフトしました。岐阜のウィークポイントであるGKとDFラインの裏のスペースを執拗に突かれることが無くなったこと、秀人と吉本が若林をきっちり押さえ込んでくれたことがこのゲームの結果に大きな影響を及ぼしたと思います。結果、虎の子の1点を守りきり試合終了。なんとか3回戦へのキップを手に入れることができました。

次の相手は松本山雅FC。個人的に愛着のあるクラブですので、非常に楽しみな一戦となりました。岐阜がより高みを目指せるように応援したいと思います。(マツヒラ)

長良川に「やって来た」片桐淳至。 岐阜1-2甲府【第4節】

FC岐阜対甲府戦は1対2で逆転負け。吉本選手の移籍後初ゴールも、後半残り15分で逆転負け。上位に入るには勝ち抜く力も必要。目標の10位には届くところまで来た。あとはもっともっと上へ！！。次の試合もサポーター全員でFC岐阜を盛り上げよう！。FC岐阜頑張れ！（ハマッチ）

「おお、片桐スタメンだよ〜」と、まずそれが最初の感想。コンディション不良が風の噂で流れてきて、しばらくサブメンバー入りもしていなかったように聞いていたが、やはりこの試合に照準を合わせていたのか。ヤル気だな、淳至……。それにしても、甲府のサポーターってのは人数も集まるけど、声も出るねえ。今季では札幌、仙台と、この甲府がスゴかったかな。もちろん、相手のサポーターと勝負してるわけじゃなく、選手の後押しをすることが唯一無二ではあるけれど、長良川で負けてはいられないのだが……。

さて、この試合。いつもなら、後半終盤からの本領発揮が売りのはずの岐阜が、前半の早いうちから主導権を握る。やる側にとっても、見る側にとっても予想外な展開、と言ったら言い過ぎか？元10番は相変わらずで、その分慣れない甲府が様子を伺っていたのかもしれない。チャンスを作りながらも得点ができず、このあたりも勝負の綾となってしまったのかも。それでも、後半開始直後CKから吉本がボレー。これが見事にネットを揺らし、吉本は岐阜での初ゴールを決める。その後も岐阜のペースが続き、追加点も決まりそうな流れだったが決定機を逃してしまう。

こうなると、流れが甲府に傾くのは必然で、さらに交代によって加速した攻撃は瞬間に2点を奪って試合をひっくり返されてしまう。サブメンバーの充実といい、この先にあるものへの執着力というか、気合いの入りの違いといい、やはり高いレベル、昇格争いをしているクラブだなあという印象。ともかく、今年も甲府に勝つことができなかった。仙台、湘南、甲府。さて、来季リベンジさせてくれるのはドコだろう？（ぐん、）

【セカンド】ついに全国大会初勝利。 そして優勝・松本山雅をギリギリまで 追いつめる【全国社会人】

「全国社会人サッカー選手権大会」。国体のプレ(予行)大会として行われていた『地域リーグ以下』のカップ戦(1年だけJFL勢が参加したことあり)。かつては比較的地味に行われていたこの大会は、近年「全国地域サッカーリーグ決勝大会」への挑戦権獲得最終大会として大いに注目を浴びるようになった。千葉県で開催されたこの大会に、東海地区からは静岡FC、浜松大学FC、そして我々がFC岐阜セカンドが参戦した。全国から猛者の集まるこの大会に『県リーグ』勢が挑むのは開催県枠(小山田FC)と岐阜セカンドだけ。あとはみな、地域リーグ所属の強豪揃い。1回戦の相手は関西代表・アイン食品。今年の関西リーグ1部を3位で終えた。かつては嶋田正吾が在籍していたクラブでもある。

序盤は、選手がカタかったせいもあるだろうけど、カテゴリーの差が試合内容に如実に出してしまった。蹴り返しては攻撃を受け、蹴り返しては攻撃を受け。しかし、前半26分に片山のFKがワンバウンドしてそのままゴールイン！びっくりの先制点。しかし、後半開始早々にアクシデントで途中交代で入ったGK佐野とDFの連携ミスを突かれ同点に。さらにPKで逆転され。ここで投入されたのが遊佐。岐阜系の観客がみんな言う。「遊佐が入って流れが変わった」。そして残り10分に今度はこちらがPKをもらって同点に。しかもアインはDFが退場。主導権を握った岐阜セカンドは、後半終了近くの79分(この大会は5連戦となるので40分ハーフです)CKをファーの松江がヘッドで中に折り返し、角がヘッドでゴールイン！再逆転！

こうして、FC岐阜セカンドとして初めて全国大会で勝利することが出来た(国体は『岐阜県選抜』で、岐阜セカンドとして参加したのではないので)。駆けつけた数名のサポもまさに感無量だった模様。

翌日には、今大会を優勝する北信越の松本山雅(北村隆二が在籍)を相手に1-1で延長に突入する粘りを見せ、観戦していた関西2部の某監督をして「ウチが岐阜セカンドとやったらちんちんにされる」と言わせた。残念ながら延長で力尽きたけど、選手たちが得たものはものすごく大きいはずだ。

この大会、2年後はこの岐阜県で開催されます。全国から社会人の強豪が集う「全国社会人」、「ぎふ清流国体」同様に注目してください。(吉田铸造)